FFG
Victory
Road

FFGグループ内で活躍する実業団や
社会人チーム、部活動、個人スポーツ
活動を紹介するコーナーです

福岡中央銀行　RISA MIFUNE

三舩 梨紗

「バトントワラー」

福岡中央銀行 桧原支店に勤務する銀行員であり、バトントワーリングの強豪チーム「ゴールデンハーツバトンチーム」に所属する三舩梨紗さん。2度の世界大会出場、銀行員生活とバトンの両立、バトントワーリングへの思いなどをインタビューした。

強豪バトンチームに所属
福岡中央銀行の銀行員

くるくると回転しながら宙を舞うバトンをしなやかな動きでキャッチする「バトントワーリング」。両端に重りがついた鉄の棒（バトン）を回転させる（トワーリング）ことからその名が付いた。音楽に合わせてバトンを回転させたり、空中に投げたり、スピーディーな操作にバレエや体操の要素を組み入れた芸術性の高いスポーツだ。

福岡中央銀行 桧原支店に勤務する三舩梨紗さんは、銀行員でありながら福岡市を拠点に活動するバトントワーリングの強豪チーム「ゴールデンハーツバトンチーム」のメンバーでもある。

「私がバトントワーリングを始めたのは5歳の頃です。小学校の体育館でバトン教室をやっていて、姉と一緒に

3

1

2

三舩さん所属の「ゴールデンハーツバトンチーム」が2023年8月、イギリスで行われた世界大会に出場した際の様子　**1.**表彰式でポーズを決めるチームメンバー（2列目左から2人目が三舩さん）／**2.**世界大会を終え、空港で撮影／**3.**開催国のイギリス・リバプールで記念撮影

撮影のために何度も側宙してくれた三舩さん。小さい頃からやっているので恐怖は感じないとか。ちなみに競技では、バトンを高く投げて側宙してキャッチなど、高度な技が入る

体験したのが始まりでした。姉がやりたいと言ったので、姉妹で習うことになりました」

5歳からずっとバトン一筋。練習を重ねて難しい技ができるようになったときの喜びは大人になった今でも鮮明に覚えているという。

初めての世界大会は高校2年生の時。8月にフランスで行われた「第10回WBTFインターナショナルカップ」にチームで初出場し、アーティスティックグループ部門で1位に輝いた。

「世界大会では、海外のお客さんの会場いっぱいに響く温かい拍手と大声援に感動しました。日本国内の大会だと、自分のチームの人が出ているときや、有名選手のときだけ拍手がおこるのですが、海外はどんな選手やチームでも拍手で迎えてくれる。拍手と声援に包まれた会場で演技をするのがとても楽しかったです」

「ゴールデンハーツバトンチーム」の代表・安武 寛子先生と一緒に

ケガ防止やパフォーマンス向上のために欠かせないストレッチ

銀行員として迎えた2度目の世界大会

順風満帆な競技人生のように思えた。しかし、高校2年生で世界大会を終えた後、新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、大会の延期や中止が相次いだ。コロナ禍のなかで高校を卒業し、地元の短期大学へ進学。短大生の時に開催されるはずの世界大会が延期になり、社会人1年目の開催にずれ込んだ。

「短大生になって世界大会に出たらチームを卒業しようと思っていましたが、コロナ禍で考え方が変わり、社会人になってもバトンを続ける決心をしました」

福岡中央銀行に入行後は、桧原支店に配属。「8月に世界大会出場を控えていたので、社会人1年目がとにかく大変でした」と当時を振り返る。

取材日に練習に来ていたメンバーと記念写真

「社会人になると練習時間が必然的に短くなります。出勤するときもバトンを持参して、仕事が終わったら公共交通機関で練習場に直行する生活でした。練習場所は大野城市や太宰府市など毎日変わるので、家族に車で送ってもらったこともあります」

過酷な練習と初めての仕事を両立しながら、8月、イギリスで行われた「2023年IBTF世界バトントワーリング選手権大会」に出場。世界15カ国より17チームが出場したアーティスティックグループ部門で見事1位、個人戦のトゥーバトン（2本のバトンを用いて技術を競う種目）シニア部門では出場者30人中7位という好成績を残した。

家族のようなチームの絆 バトン1本の重みを実感

三舩さんが所属する「ゴールデンハーツバトンチーム」には約80人が在籍する。

「みんな小さい頃から一緒なので家族のような連帯感があります。団体戦出場のメンバーには、自分よりも

RISA MIFUNE

2003年2月1日生まれ、21歳。福岡市出身・在住。
5歳の頃からバトンを始める。「ゴールデンハーツバトンチーム」に所属し、世界大会でチーム2連覇達成。2023年4月、福岡中央銀行入行。桧原支店に配属され、窓口業務、融資事務を担当。現在、銀行員2年目。

福岡中央銀行 桧原支店の皆さん。前列左端から鈴木支店長（前）、三舩さん

上の人がいれば、下の子もいます。メンバー内では、年齢に関係なく、言いたいことがあったらため込まず、みんなでとことん話しあうようにしていました。時には喧嘩や言い合いになることもありましたが、お互いを理解し合うことは、チームにとって大事なことです」

社会人になった今では、中高生を教える機会も増えているという。

「小さい子に教えることもあります。恥ずかしがり屋な子、たくさん練習する子、それぞれ個性があって楽しいです」

大人になるにつれ大会に対する心構えも変化してきた。

「中学生くらいまでは個人戦の方が緊張して、チーム戦は全く緊張しませんでした。高校生になってくると『バトン一本の重み』を実感するようになり、団体戦の方が緊張するようになりました。チームでは、一人がミスしたら全員に迷惑をかけてしまいます。例えば、ドロップ（バトンを落とすこと）があったら減点になります。バトンを1本落とすだけで、そこから全体のリズムが崩れてしまって最下位になることもあります。個人戦も緊張はするのですが、結果の良し悪しが自分にしか係ってこないから気持ちは楽です」

仕事を頑張りながらバトンも楽しく続けたい

現在、三舩さんは銀行員2年目で、融資事務を担当している。

「バトンについては、世界大会に2回出場して一区切りついたので、今まで週5回していた練習を、週2、3回に減らしています」

個人戦は今年の3月まで出場し、1月開催の「第49回全日本バトントワーリング選手権　九州大会」ではトゥーバトン1位、ソロトワール（1本のバトンで技術を競う種目）2位に輝いた。

「私が出場したU-22は社会人が多く出場人数こそ少ないですが、社会人になっても続けているのは全日本に何度も出場するような人たちばかりでみんな強いです」

世界大会を経験したことで、バトンに対する思いも変化してきた。

「今までは大会で優勝することを目標にしていましたが、これからは地域のイベントやバトンの演技披露会などで、たくさんの方にバトントワーリングの面白さを伝えていきたいです」

三舩さんはこれからも仕事とバトンの両輪を回し続ける。

福岡中央銀行 桧原支店

■住所
福岡市南区桧原1丁目33-31